

ROSE

富士市発エンターテインメント情報誌 ロゼ
2025 Autumn Vol.133

TAKE
FREE
無料

ROSE

富士市文化会館ロゼシアター 「情報誌ロゼ」 2025年9月発行(第133号・秋号)
■発行/公益財団法人富士市文化振興財団 〒416-0953 静岡県富士市藤原町1750番地 TEL:0545-60-2510 ■企画・編集・制作/公益財団法人富士市文化振興財団 タイムデザイン



INTERVIEW

振付家・ダンサー

創作ダンスワークショップコーディネーター

中村 蓉 内堀愛菜



創作ダンスワークショップ
コーディネーター

内堀 愛菜

Ena Uchibori

日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。同大学院運動科学研究科舞踊学領域修了。在学中から年齢や障がい、ダンス経験の有無等関係なく、多様な人びとが参加することができるインクルーシヴ・ダンスについて研究を行う。その経験を活かし、現在はワークショップの企画や、地域交流、地方創生活動に関わる活動にも取り組む。

〈Co.山田うん〉では、カンパニーマネージャーとして公演の企画・制作・運営やワークショップのコーディネートなどを担当。〈ヨウ+〉ではディレクターを務め、ダンスを基軸にしながら、多様な芸術表現の可能性を探り、ジャンルを越えた創作に取り組んでいる。

振付家・ダンサー

中村 蓉

Yo Nakamura

早稲田大学在学中にコンテンポラリーダンスを始める。国際芸術祭あいち2022、シビウ国際演劇祭などで作品を上演。主宰する団体〈ヨウ+〉を2013年に旗揚げ。小説や戯曲を原案にしたダンス作品を多く創作し『邦子狂詩曲』（2024・東京芸術劇場主催）などの作品がある。東京二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『セルセ』『デイダミア』では演出・振付を担当。他にサンリオピューロランドのショーなど幅広く振付を手掛ける。

横浜ダンスコレクションEX2013審査員賞、第5回エルスール財団新人賞などを受賞。



ロゼシアター
on demand

ロゼシアターのさまざまな情報を
デジタルコンテンツでお届け！
最新情報の一部をご紹介します。

～YouTube Vol.14～

2020年にスタートしたYouTube「ロゼシアターチャンネル」では、現在約160本の動画を公開しています。
ロゼシアターの主催する市民ミュージカルのほか、市民演奏家によるコンサートやアウトリーチ事業の様子などをお届けしています。

新進アーティスト作品展

「新進アーティスト作品展」は、地域の芸術文化水準の向上を図るとともに、未来の可能性を感じさせるアーティストを見出し、作品発表の場を提供することを目的とした、18歳～35歳の若手芸術家による公募展です。

2025年3月1日（土）～3月9日（日）に開催された「新進アーティスト作品展 vol.23-Art Generation 2025-」の作品をご覧ください。
併せて、同時開催された「高校生の部」および前回(vol.22)優秀賞受賞者による個展「菊地美月作品展」の様子もお楽しみください。



チャンネル登録お願いします！！
YouTube「ロゼシアターチャンネル」



LINE公式アカウント 友だち募集中
@093wgbne ロゼシアター【イベント】

今年度から、ロゼシアターでは新たな取り組みとして
創作ダンス事業をスタートします。
振付家・ダンサーとして活躍中の中村蓉さんと、
全国各地でワークショップのコーディネートを行っている
内堀愛菜さんにお話を伺いました。

中村さんがプロのダンサーとして活躍する ようになるまでの歩み

中村：大学でダンスのサークルに所属し、プロとして活躍する先輩の姿に刺激を受け、アシスタントの経験を積んだ後、自分もプロの道に進むことを決意しました。そこからは必死にしがみつような努力を重ね、二〇一三年には「ヨコハマダンスコレクション」コンテンポラリーダンスのコンテストにソロで出場し、審査員賞・シビウ国際演劇祭賞を受賞することができました。海外と関わりのあるコンテストでもあり、その後海外でも活動して経験を積みました。私はダンスの「創る」「踊る」「観る」そのすべてに魅力を感じているダンスマニアで、生活のすべてがダンスと共に生きています。

内堀：蓉さんは、非常にストイックな方です。ダンスについては徹底的に調べ研究して、稽古では誰よりも長い時間全力で臨んでいます。特に公演の二週間前には、周りが心配になるほど自分を追い込んで準備に励むほどです。

内堀さんが現在の活動を始めるまでの 経緯について

内堀：体育の教員を志し、大学に進学しました。大学ではそれまで取り組んできたダンスの経験から

舞踊学を専攻し、ジャンルにとらわれず、経験や障がいの有無に関係なく誰もが参加できるダンスに関心を持ち、研究をしてきました。大学院に在学中、ダンスカンパニー

が制作スタッフを探しているという話を聞き、活動に携わるようになりました。実は高校時代から運営に関心があり、それまでも企画・運営の経験を積んでいたことが、現在の活動につながっているのかなと感じています。

中村：愛菜さんは、アーティスト、スタッフ、関わってくれている方に対して愛情が深く、それを形にちゃんと表せる人ですね。いつも明るくて、稽古でみんなが追い込まれ、ビリビリしている時でも明るい雰囲気を作ってくれます。

現代舞踊の魅力について

中村：踊ることの魅力はいっぱいあります。個人的に感じているのは踊っている時に自分はこういう生き物だと実感できることです。現代舞踊（コンテンポラリーダンス）は、誰にでも名作を生み出すことができる可能性を持っています。何も考えずに踊るのではなく、頭で考えながら体を使う教養としてのダンスを広めたいと考えているのですが、様々なことを表現する体験を通じて、物事をいろいろな角度から見るできるようになります。たとえば、



椅子をひっくり返してその面白さを考えるように、日常のものを違った視点で見ること、人生がもっと楽しくなり暮らしをもっと豊かにできると考えています。

舞台公演について感じていること、 魅力について

中村：舞台は、生（なま）のエネルギーを感じてもらえる特別な空間です。たとえ途中でアクシデントが起きたとしても、それも含めて「今」という時間を共有することができます。舞台上では客席の反応や雰囲気をとっても感じることもできます。たとえば、お昼の後の公演では「眠そうにまつたりしている」方が多いとか、きつと観ているお客さまが思っているよりも舞台上のキャストは感じています。その雰囲気によって演技や演出を微細に調整することもあるのです。お客さまとの間には、ただ観てもらいだけでなく、共にその



内堀：コミュニティダンスは、その土地に合ったダンスの形式を模索して、コミュニティ（地域に根ざしていく）ことを目的としています。地域の特性や住民

場と一緒に「つくっている」という感覚があります。

ネットでは動画などで作品を観ることができ
ますが、舞台公演との違いについて

中村：映像は、目の前の全体を見せる舞台とは違い、どこを見たいかクローズアップして表現できるのが動画ならではの。映像は記録として残すことができるので、その時代の「今」を切り取った映像が記録され、残されていくことも魅力ですね。

内堀：現代舞踊コンテンポラリーダンスのコンテンポラリーとは「同時代的」「現代的」という意味です。その時代の空気や流行、社会の感覚を身体で表現するものだからこそ、映像として残す価値がありますね。

内堀さんが研究、活動している「コミュニティ ダンス、インクルーシヴ・ダンス」について

内堀：コミュニティダンスは、その土地に合ったダンスの形式を模索して、コミュニティ（地域に根ざしていく）ことを目的としています。地域の特性や住民

むことが大切です。そして、一緒に参加する方々の変化にも気づきがあり、みんなでその過程を共有できるのが魅力です。ぜひ多くの方に参加していただきたいです。

中村：心の準備は不要です！一歩会場に足を踏み入れた瞬間から、ダンスが始まります。そこには、心が躍るような体験が待っています。あなた自身にも、そして周りの参加者にも「いいね」を送りたくなる、そんな素敵な時間を一緒に過ごしましょう！

ありがとうございました。

取材：文／渡辺 聡仁
撮影／長橋 睦



各地でワークショップを実施されている中 で、地域ごとの特色や反応の違いを感じる こと

内堀：住む場所によって、さまざまな違いが見られますね。海や川の近くに暮らしているのか、山のそばなのか、都市部なのか、地方なのかによって、生活環境も異なりますし、運動能力や体格にも違いが見られます。

中村：私が出会った青森の人は、最初は距離を置けれど、時間をかけて付き合うと情が深くなくて、親密な関係になれる。一方、大阪の人はお笑いに敏感で、笑いや楽しさをすぐにキャッチする感性があるなど、地域ごとに人の気質やコミュニケーションのスタイルに違いを感じますよね。

二月に創作ダンスの体験ワークショップを 行います。募集の対象となる子どもたちに メッセージをお願いします

内堀：ダンスに対して恥ずかしさや「ちゃんと動けるかな」という不安を感じる方もいるかもしれませんが、でも、コンテンポラリーダンスは「今」の自分をそのまま受け入れるところから始まります。うまく踊ることが目的ではなく、自分自身の変化を楽し

創作ダンスワークショップ

講師：中村 蓉

ワークショップコーディネーター：内堀 愛菜

【日時】 令和8年2月14日（土）、22日（日）

14:00～16:00（予定）

【場所】 ロゼシアター リハーサル室

【対象】 小学4年生から中学3年生まで

【定員】 20名

【参加申込み】 令和7年12月14日（日）～（先着順）

※催事詳細および参加申込みについては、ロゼシアターホームページ・自主公演のご案内をご確認ください。

クリスマスオーナメント製作ワークショップ

つくろう!かざろう! Xmasオーナメント

PICK UP



右:あしざわまさひと氏
左:しんばおりえ氏



好評を博したワークショップの第二弾参加者募集の前に、昨年の様子をご紹介します。

二〇二四年十一月十日(日)ロゼシアター展示室でクリスマスオーナメント製作ワークショップを開催しました。

このワークショップは小学校低学年を主な参加者として、画用紙などを材料にクリスマスリース風のオーナメントを自作するものです。

オーナメント製作の講師は富士市内外で活躍しているアトリエパセリ代表のあしざわまさひと氏としんばおりえ氏の二名です。

製作されたオーナメントは、クリスマスシーズンにロゼシアターのガレリアを彩る高さ約五メートルの巨大なクリスマスツリーに飾り付けられます。

オーナメントは、講師の用意した

- 【参加者の声】

 - ◆みんなで一緒に作れて楽しかった。
 - ◆少し大変なところもあるけど、作る楽しさを感じられた。
 - ◆楽しくて、おうちのツリーにも早く飾りたい。
- 【保護者の声】

 - ◆自分でどんなものにしたか形にできて、親もうれしく思う。
 - ◆親子でゆっくり工作することなんてなかなかないので良い時間を過ごせた。
 - ◆集中してものづくりに取り組んでいる子供の姿が見られて良かった。



クリスマスオーナメント製作ワークショップ2025 『つくろう!かざろう!Xmasオーナメント』

- 〈開催日時〉:11月9日(日) 10:00~11:30(内容約90分)
- 〈会場〉:ロゼシアター 展示室(富士市蓼原町1750番地)
- 〈参加費〉:無料(事前申込制)
- 〈定員〉:30名(先着順)※同伴の保護者の方は定員に含みません。
- 〈対象〉:小学生(弟妹に限り、4歳以上参加可)
- ▶申込受付:10月7日(火)14:00~※定員に達し次第終了
- ▶申込方法:電話 0545-60-2500

Report

音楽アウトリーチ事業のあゆみ



おでかけ芸術教室



おでかけクラシック



おでかけクラシック



ロゼマタニティコンサート



おでかけ芸術教室



おでかけ芸術教室



おでかけクラシック



コミュニティまちづくりコンサート



おでかけロゼシアターinまちづくりセンター

今年オープンした北里アリーナ富士と富士見台まちづくりセンターでコンサートを行います!

『おでかけロゼシアター』 入場料無料 ご家族で!お友達と!どなたでもご来場ください。

令和7年12月13日(土)

【午前の部】

開場10:45 開演11:00

会場: 北里アリーナ富士 サブアリーナ
(富士市大淵115)



北里アリーナ富士

【午後の部】

開場14:15 開演14:30

会場: 富士見台まちづくりセンター
多目的ホール
(富士市富士見台6丁目1-1)



富士見台まちづくりセンター



野田 枝里
(フルート)

土岐 光秀
(サクソフォン)



本多 美瑞紀
(ピアノ)

※午前・午後の会場ともに駐車場には限りがあります。乗り合わせもしくは公共交通機関・徒歩にてのご来場にご協力ください。

EVENT SCHEDULE

イベントスケジュール 2025年10月～2026年3月

ロゼシアター主催・共催事業のご案内

12月

おでかけロゼシアター

日 時: 12月13日(土)
午前の部 開場10:45 開演11:00
午後の部 開場14:15 開演14:30
会 場: 午前:北里アリーナ富士 サブアリーナ
午後:富士見台まちづくりセンター
入場料: 無料



野田枝里 (フルート) 土岐光秀 (サクソフォン) 本多美瑞紀 (ピアノ)

1月

富士山静岡交響楽団

日 時: 2026年1月18日(日)
開場 12:45 開演 13:30
会 場: 大ホール
入場料: (全席指定・税込)
一般 3,000円 学生 1,000円

※未就学児入場不可
※学生は25歳以下対象
※当日500円増(一般のみ)



指揮者 藤岡幸夫

ピアノ 飯田知樹

発売日
WEB:10月23日(木)
窓口:10月24日(金)

共

1月

葛西聖司の入門講座 「文楽のツボ」

日 時: 2026年1月30日(金)
開場18:00 開演18:30

会 場: 小ホール
入場料: (自由席・税込)
一般 1,000円
学生 500円
※未就学児入場不可
※学生は25歳以下対象

発売日
WEB:12月18日(木)
窓口:12月19日(金)



©山口直也

2月

レクチャーコンサート2026 ～クラシック 名曲の花束～

日 時: 2026年2月13日(金)
開場18:30 開演19:00

会 場: 小ホール
入場料: (全席指定・税込)
均一 3,000円
※未就学児入場不可

発売日
WEB・窓口:11月21日(金)



©新津保建秀

ナビゲーター 浦久俊彦

2月

新進アーティスト作品展vol.24 -Art Generation 2026-

日 時: 2026年2月28日(土)～3月8日(日)
10:00～18:00 ※最終日は17:00まで

会 場: 展示室
入場料: 無料



前回の様子

3月

人形浄瑠璃 文楽

日 時: 2026年3月6日(金)
昼の部/開場13:00 開演13:30
夜の部/開場17:30 開演18:00

会 場: 中ホール
入場料: (全席指定・税込)
昼の部/夜の部
各回 一般 4,000円 学生 1,000円
※未就学児入場不可 ※学生は25歳以下対象
[セット券]
・文楽通し券 6,400円
・昼の部+葛西入門 4,400円
・夜の部+葛西入門 4,400円

発売日 WEB: 12月18日(木)
窓口: 12月19日(金)



©青木信二

文楽 曾根崎心中

10月

絢香「Wonder! Tour 2025」

日 時: 10月4日(土)
開場 16:00 開演 17:00

会 場: 大ホール
入場料: (全席指定・税込)
均一 9,400円
※未就学児入場不可

発売中



11月

ふじ寄席 神田伯山 独演会

日 時: 11月8日(土)
開場 13:00 開演 13:30

会 場: 中ホール
入場料: (全席指定・税込)
均一 4,000円
※未就学児入場不可

先行抽選受付
9月12日(金)～9月23日(火祝)
WEB: 10月3日(金)



11月

Xmasオーナメントワークショップ

日 時: 11月9日(日)
10:00～11:30

会 場: 展示室
参加費: 無料 ※事前申込制
対 象: 小学生と保護者
※弟妹に限り4歳以上参加可

参加申込: 10/7(火) 14:00～
(電話申込のみ)



前回の様子

11月

一条工務店 presents 恐竜ラボ! ギガ・ミッション from DINO-A-LIVE

日 時: 11月22日(土)
① 開場 9:45 開演 10:30
② 開場 12:45 開演 13:30
③ 開場 15:45 開演 16:30

会 場: 大ホール

入場料: (全席指定・税込)
ダイナミックシート 6,900円
S席 4,900円 A席 2,500円
※3歳以上有料、2歳以下は膝上鑑賞無料。
但し、お席が必要な場合は有料。

発売中



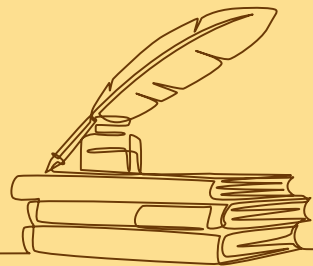
WEB購入手順

- 1 ロゼシアターホームページ <https://rose-theatre.jp> (24時間対応)
 - 2 「ロゼフレンドシップ」へログイン ※「ロゼフレンドシップ」への登録が必要です
 - 3 公演・座席選択 「座席指定して予約」より座席を選択可能
 - 4 支払方法・チケット引取方法 選択 クレジットカード決済 ▶ 会館窓口またはセブンイレブン店頭引取が選択可
セブンイレブン支払 ▶ セブンイレブン店頭でチケット引取
- ※車いす席はロゼシアターへお問い合わせください ※発売初日は10:00からの販売となります ※購入後の変更・キャンセルはできません

※公演により支払い方法が
異なる場合がございます

浦久俊彦（うらひさ としひこ）

文筆家・文化芸術プロデューサー。軽井沢のひとり図書館「軽井沢本の森」館長。愛知県教育委員会教育アドバイザー、一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事、文化芸術系人材育成コミュニティ「ダ・ヴィンチの学校」学長など、未来の文化人育成にも力を注ぐ。2021年3月、サラマンカホール音楽監督として企画した『ぎふ未来音楽展2020』が、サントリ―芸術財団第20回佐治敬三賞を受賞した。著書に『138億年の音楽史』（講談社）、『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』『悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト』『ベートーヴェンと日本人』（以上、新潮社）、『オーケストラに未来はあるか（指揮者・山田和樹との共著）』（アルテスパブリッシング）、『リベラルアーツ～「遊び」を極めて賢者になる』（集英社インターナショナル）など。最新刊は、『音楽家は本を読む 浦久俊彦の乱読道場』（アルテスパブリッシング）。



KATALOG
語るく
～開演ベルが鳴る前に～

音楽、演劇、ミュージカル、伝統芸能まで―。
人と人とをつなぎ、感動を共鳴させてきた劇場文化。
その魅力を、多彩な分野で活躍する
文化芸術プロデューサーが
縦横無尽に語りかける気楽なエッセイ、
まもなく開幕です。ごゆっくりお楽しみください。

Vol.2

参考文献

『人生を豊かにしたい人のための講談』神田松鯉著、
マイナビ出版2020
『東京人』2023年2月号「特集 講談」都市出版
『講談事典』瀧口雅仁著、丸善出版2023

講談を聞きに行こう！

「勧善懲悪」を物語る 講談の魅力とは？

では、たんに本を読み聞かせる「朗読」とはどう違うのか。一方に台本をそのまま読む「朗読」があつて、一方の対極に台本を自ら演じる「演劇」がある。その中間が「講談」だと、神田松鯉は弟子たちに教えたそうです。なかなか深い言葉ですね。

ほかに、講談には独特の魅力があります。そのひとつは「連続物」でしょう。「……この続きはまた明日の連続として、今日はこの辺でおいとまを……」という台詞を残して、昔の講談師は、長編の講談も何日も、あるいは数ヶ月かけて読んでいたそうです。毎日、物語の続き

パリの空の下に、
講談が流れる
いまから三十年も前になりますが、当時暮らしていたパリで、一度だけ講談を聞きに行ったことがあります。なぜ日本の講談師がわざわざ異国のフランスまでやってきたのか。そもそも日本語の講談をフランス人たちがどう理解したのか。いま思えば不思議ですが、そういえばよく誘ってくれたのもフランス人の青年でした。彼は自分のアパートに畳を敷きつめて、和服で生活するほどの日本好きで、部屋には歌麿や北斎の浮世絵が飾られていました。
たとえば江戸絵画の巨匠・伊藤若冲の魅力を日本が再発見するきっかけになったアメリカの美術収集家ジョー・

ブライスのように、西洋人のなかには日本人が気付かない日本の美を愛でる眼力をもったひとがいます。多くの友人のなかにも、日本人である自分が恥ずかしくなるほど日本の版画や伝統絵画に造詣の深いフランス人がいたりします。よく自身も、ほんとうに日本の美しさに目覚めたのは、じつは遠く日本を離れてパリの地下鉄の薄暗いホームに大きく貼られていた日本の桜のポスターを見たときの、あの衝撃がきっかけだったと思えるように、案外そのなかにいると、見過ごしてしまう魅力もあるのかもしれない。

さて、その日本好きのフランス人に連れられていった講談の会場は、暗くカビのような臭いのする古い建物の小



江戸の講談風景

を楽しみに集まってくる人々が集う講談場の光景を想像すると楽しいですね。

よくがとくに惹かれるのは、講談は「ハッピーエンド」が基本だからです。勧善懲悪が根本にあつて、必ず悪が滅び、正義が勝ちます。「カネがすべて」の現代では、とかく金銭の陰に隠れて人の「正義」や「善」を問うことが難しくなっています。苦勞する人が報われて、実直な人が最後は認められるという日本人がずっと大切にしてきた価値観が、講談の世界にはいまも息づいているのです。

浦久俊彦

ふじ寄席 神田伯山 独演会

令和7年11月8日(土) 13:00開場 13:30開演

ロゼシアター 中ホール

入場料:(全席指定・税込)

均一 4,000円

※未就学児入場不可

【先行抽選受付】9月12日(金)10:00～9月23日(火祝)

【WEB発売日】10月3日(金)10:00～

※残席がある場合に限る10月7日(火)以降、窓口取扱い予定



「講談」と「落語」の違いとは？

講談は、いうまでもなく日本の伝統芸能である「話芸」のひとつですが、日本人におなじみの話芸といえば、まず「落語」があげられるでしょう。では、「講談」と「落語」はどこが違うのか。いまをときめく大人気講談師、神田伯山の師匠で人間国宝の神田松鯉によれば、同じ話芸でも、落語が会話によって成り立つ「話す芸」であるのに対し、講談は「読む芸」であるといえます。講談師たちは、釈台と呼ばれる文机のうえに本を置いて、『太平記』や『信長記』など合戦の話である「軍談」や、庶民の生活を写實的に描き、当時の世俗や風俗を現わす「世話物」など、多彩なジャンルの台本を「読んでいる」わけです。

さなサロンでした。集まっていたのは二十人ほどでしょうか。そのときの講談師の名前や顔すら、もはや記憶の彼方だというのに、いまでもよく覚えているのは、講談師が一声を発したときの音圧の凄さでした。その場の激んだ空気が一気に張り詰めただけでなく、まるで呼吸しているかのように空気の色や流れが変わっていくさまは、いまでもよく覚えています。ボンボンと調子よくリズムを刻む張扇は、まるで講談師の楽器のようです。あらためて「話芸」としての講談の凄さを実感できた忘れがたい体験でした。

文楽のツボ

～人形芝居を楽しむ法～

古典芸能解説者

葛西聖司

かさい せいじ

NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオのさまざまな番組を担当してきた。現在は歌舞伎、文楽、能狂言、邦楽など古典芸能の解説や講演、セミナーなどを全国で展開。著作も数多い。

【著書】
「僕らの歌舞伎」(淡交社)
「文楽のツボ」(NHK出版)
「教養として学んでおきたい歌舞伎」(マイナビ新書)

「教養として学んでおきたい能・狂言」(マイナビ新書)
「名セリフの力」(展望社)
「ことばの切っ先」(展望社)
「稚翠小松賑一歌舞伎のまち・こどもの力」(小松市)ほか。
日本演劇協会会員(評論)、早稲田大学公開講座、NHK文化センター、朝日カルチャーセンター講師



ロゼシアターに来年「文楽」がやってくる その「文楽」ってなに？ という話から始めよう

まず読み方「ぶんがく」という人が多い。「音楽」「邦楽」「洋楽」ちよつと古い時代の「雅楽」みんな「がく」と発音するから当然だ。でもこれは「ぶんらく」娯楽の「らく」だ。

人形の芝居小屋を経営していた植村文楽軒という人の名前から劇場名が「文楽座」。ほかにも、いろいろな小屋があったが、明治時代に、こだけになって、「人形芝居に行こうやおまへんか」↓「ほな文楽座にいきまひよいな」↓「文楽見に行きまへんか」となって……人形芝居の代名詞になった。

なんで関西弁なの？これは江戸時代、大坂(昔はこう書いた)の道頓堀(いまグリコやカニが目立つ街)で大人気だった。それは歌舞伎じゃないの？といわれそうだが、実は歌舞伎より人気があった。

理由その一、ストーリーが面白い。近松門左衛門に代表される作者たちが「俊寛」「仮名手本忠臣蔵」といった大ヒット作品を書いた。

理由その二、物語の語り手(太夫)に美声の人が多く、その代表が竹本義太夫。「ええ声やなあ」「登場人物の違いがよう、わかりまつせ」などと評判を呼び「あのひとの節ききたいわあ」↓「義太夫はんのことやろ」↓「義太夫節やがな」となって。三味線の音の魅力とともに、人形芝居の音楽を「義太夫節」が席卷するようになって、これも「音楽」↓「義太夫」と代名詞になった。

理由その三、最初は素朴な人形をひとりで遣う(操る)ものだったが、三人遣いという技をうみ、人形自体も仕掛けや表情豊かに工夫され、よりドラマが立体的になった。

そんな理由で「竹本座」「豊竹座」をはじめ、あちこちに小屋ができていたが、近代になって「文楽」ひとつになった。歌舞伎も「松竹」という興行会社にまとまったように。

もうひとつ、みなさんが難しく感じるの「人形浄瑠璃」という言葉。文楽は人形浄瑠璃・文楽というのが正式な名称。

これまで、人形芝居と書いてきたが、江戸時代は「浄瑠璃を聞きにいこや、おまへんか」といっていた。これは義太夫節で語られる物語を指す。浄瑠璃とは「浄瑠璃姫」から来ている。いかにも美形のお姫様の名前だ

が、牛若丸(義経)の恋人だ。このふたりのロマンスが三味線によって語られ人気になって、牛若丸の物語↓浄瑠璃姫の物語↓浄瑠璃となって、三味線による語り物音楽全体が浄瑠璃といわれようになった。これも代名詞。ゲーム↓プレステ、ハンバーガー↓マック、ドーナツ↓ミスドに近い？

要するに、人形が演じる音楽芝居を人形浄瑠璃といった。

そんな代名詞だらけの世界無形文化遺産を、生で楽しめる。素直に飛び込めばいいのだが、せっかく、出会うチャンスなら「おもしろい」と思っている。かとおもうと、人形たちが繊細な動きで、ともに嘆き悲しんだり、大笑いしたりというドラマが展開する。どこを見れば？と迷ってしまうが、自分の好きなものに注目すれば、人形遣いが一体に三人いても、その人たちの顔ではなく人形の表情に集中できるし、字幕がない場合のために、少し早めに会場に行つて、物語のあらすじを読んでおくか、事前にネットでも知っておくと、素直に義太夫のドラマに集中できる。

今回の作品は名作ぞういで飽きさせない 見どころ案内をしよう

新版歌祭文

今回上演されるのは「野崎村の段」。ひとりの男を二人の娘が争う、三角関係ラブストーリー。男は久松。都会の奉公先が酒屋。その娘、お染と相思相愛。しかし、実家の野崎村には親が決めた許嫁、お光がいる。勝ち気な村娘。きょうは久松と結婚できることになって、料理を作る。なんと本物の大根を切る。それも千切りに！そこに、お嬢様姿のお染がやって来る。



義経千本桜

もう、結婚できないとわかったお染は久松と心中の約束……しかし、思いがけない方向に話が展開。実は、お染は妊娠している。その様子は人形に注目しているとわかる。最後は涙、涙の展開。駕籠と舟で別れ別れの場面の三味線が名調子、そして人形が笑わせる。最後まで飽きさせない。

よしつねせんぼんざくら

物語の舞台は吉野山。兄頼朝から追われ身を隠す義経を追いかけ、静御前と、家来の佐藤忠信が旅をする。「野崎村」と違大ぜいの太夫、三味線の出演の豪華版。桜満開の舞台装置も豪華。これには仕掛けがあつて、忠信、実は狐。白狐がどこからか登場する。また狐の人形遣いの衣裳が一瞬の間に忠信の衣裳にかわる。寝ている暇はない。いちばんの見どころは源平の合戦の模様をふたりが踊る。兄継信を狙う矢が平教経の弓から放たれるとき。息をのむ瞬間。お見逃しなく。大拍手で、目覚めても、まさに「手」おくれだ。

そねざきしんじゅう

曾根崎心中

「曾根崎心中」は近松門左衛門の名作。映画「国宝」の「あゝ名シーン」、その原作を見ることが出来る。ふだん、女の人形には足がない。ところが

天満屋の場面では、縁の下に潜む徳兵衛に死ぬ覚悟を足先で伝える、徳兵衛はそれを手に取り喉笛にあてて決意を伝える。この名場面は必見。曾根崎の森での心中場面も素敵だ。へこの世の名残り、夜も名残り……

近松の名文と、三味線の哀れさ、そして人形の死の場面。世界中で熱狂されているその理由を、皆さんは知ることになる。

文楽を見たくなくなりましたか？わたしの事前セミナーにもお出かけください。もっと「ツボ」を伝授いたします。



©青木信二

公演情報

葛西聖司の入門講座 (小ホール)

令和8年1月30日(金) 18:30開演
入場料:(自由席・税込)一般1,000円 / 学生500円

人形浄瑠璃 文楽 (中ホール)

令和8年3月6日(金)
【昼の部】 13:30開演
義経千本桜「道行初音旅」
新版歌祭文「野崎村の段」
【夜の部】 18:00開演
曾根崎心中「生玉社前の段」「天満屋の段」「天神森の段」
入場料:(全席指定・税込) 各回 一般4,000円 / 学生1,000円

『お得なセット券』

- 文楽通し券 6,400円
- 昼の部+葛西入門 4,400円
- 夜の部+葛西入門 4,400円

《チケット発売日》

共通:12月18日(木)10:00~
※窓口販売は12月19日(金)10:00~

INFORMATION from ROSÉ THEATRE

Pick up vol.7 番外編 かるたの小径

和歌と歩く川のほとり

ロゼシアターの東側を流れる潤井川。その堤沿いには、百人一首の歌を刻んだ石板が百枚並び、「潤井川かるたの小径」と呼ばれています。四季の風景や川のせせらぎに包まれながら、和歌の情緒に触れる散策を楽しめます。ロゼシアターへお越しの際は、少し足をのばして歩いてみてはいかがでしょうか。



ふじ・紙のアートミュージアム

第17回 紙のアートフェスティバル 音舞里展

2025.10/7(火)～12/14(日)

10:00～18:00

休館日：ロゼシアター休館日に休館

『三谷純展』9/21(日)まで

□日程など変更する場合があります。
□詳細はWebsite・Facebook・Instagramをご参照いただくか、お電話にてお問合せください。

ふじ・紙のアートミュージアム

ロゼシアター1階 東側奥
TEL.0545-32-6581 <https://fuji-paperart.jp>



Instagram



プレゼントのご案内

アンケートに回答いただいた方の中から
抽選でチケットプレゼント!

Aコース 公演チケット2組4名様

対象公演：葛西聖司の入門講座「文楽のツボ」
2026年1月30日(金)18:30開演

Bコース レストラン「ロゼテラス」お食事券 (1,000円分) 2名様

■応募方法
右記QRコードから入力フォームにて
アンケートに回答のうえ、ご応募ください。



■受付期間
9月13日(土)～12月8日(月)
※ご応募はおひとり様1件まで(重複がある場合はすべて無効)
※当選者にはご応募時のメールアドレスへご連絡いたします。

レストラン「ロゼテラス」

期間限定メニュー

<9月2日～11月30日>

◎かつおのタタキ
和風パスタ
スープ・サラダ付
1,580円



- ビーフシチューオムライス 1,850円
- アスパラとベーコンのアラビアータ 1,500円
- 炭火焼鳥と彩り野菜のオムライス 1,580円
- ツナと木の子の和風パスタ 1,480円
- なすとモッツアレラのポロネーゼ 1,530円

スープ・
サラダ付

◆営業時間 11:00～15:00(ラストオーダー14:30)
◆場 所 2階レストラン(ロゼテラス)
◆お問合せ ロゼテラス TEL 0545-60-2727
※当面の間は月曜休店・ランチ営業のみ。
詳細は「ロゼテラス」ホームページをご覧ください。



休館日のお知らせ

10月6日(月)
11月10日(月)～11日(火)
12月8日(月)
12月28日(日)12:00～1月3日(土)

編集後記

『ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団』公演は、文化庁の助成を受け18歳以下の子供たちを招待するという初の試みを実施しました。ありがたいことに想定を上回る反響があり、予定枠があっという間に終了するほどでした。今後も子供たちに舞台芸術をお届けできるよう努めてまいります。(松)

本誌は8月10日現在の情報です。最新情報はロゼシアターホームページ等でご確認ください。

■ホームページ <https://rose-theatre.jp> ■X「ロゼシアター公式アカウント」@rose_staff_fuji ■YouTube「ロゼシアターチャンネル」 ■LINE ロゼシアター【イベント】



FLASH BACK フラッシュバック

2025年6月～7月

終了したロゼシアター主催事業の様子をお届けします! 2025年6月～7月をフラッシュバック!!

中学生招待コンサート

6月12日(木) 10:00開演/14:00開演

- 音楽ってこんなに楽しいものだ、と改めて感じました。1時間という時間があっという間で、もっと聴きたいと思いました。中学生にもとても良い経験になるコンサートでした。(40代)
- 中学生にとっても音楽を親しむ良い機会になったと思います。(50代)
- 将来、きっと音楽の世界を目指す子供たちがたくさんいることと思います。(70代)



小学生招待コンサート

6月26日(木) 10:00開演/14:00開演

- 楽しく素敵な演奏でした。富士市の小学生、良い体験ですね。(40代)
- これからの未来のための子供たちへの良い体験になったと思います。(50代)
- 指揮者体験コーナー、3人とも上手だった。市民歌、小学生の元気をもらった。(70代)



ジェイコブ・コーラー・トリオ プレミアム・ライブ

7月13日(日) 14:30開演

- ひさしぶりにピアノの生演奏が聴けました。Youtubeでよく聴いているが、生で聴くほうがすごく良かったです。(70代)
- ソロも良かったですがトリオの演奏がとても見応えがあって素晴らしいかったです。(40代)
- 知っている曲も多くて楽しかったです。ステキなアレンジになっていてまた別の曲も聴いてみたいです。(20代)



劇団四季ミュージカル 『赤毛のアン』

7月24日(木) 18:30開演

- ささいな仕草からわかる感情を読み取るのが楽しくて、夢になりました!(中学生)
- 簡単でわかりやすくおもしろい、そして深い。大人も子供も楽しめる。(40代)
- 歌もダンスもやはり引き込まれるものがある。夢中になって時間を忘れてしまった。(60代)



ロゼこどもサマーフェスティバル スタンプラリー 7月30日(水) 10:00～14:00

- バイオリンは弾くのが難しかったけど楽しかった。(7歳)
- 絵本の読み聞かせ楽しかったです。工作が一番楽しかったです。(8歳)
- さかなつりやおりがみなどいっぱいあって楽しかったです。(8歳)

- 暑い時に室内で楽しめるイベントというだけでも嬉しいのに、工作やペープサートなど内容も子供たちが楽しそうにできて良かったです。(30代)
- 初めてのことにたくさん触れることが出来てとても良い体験になりました。(40代)
- 夏休みの日中、子どもたちが様々な活動を経験でき、とても良かったです。(60代)

